

京橋の印刷

12月10日 1993・No.87

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 3552-1855

発行人
神林克明

東京都印刷工業組合京橋支部創立70周年記念式典



明るいロマンを求めて

監査 金山 耕二

いよいよ今年も残り少なくなり年末行事を控えてご多忙と拝察いたします。

われわれ企業を取りまく環境は戦後最大の危
急存亡のときと思われまますが、今や政治改革よ
り景気浮揚優先せよと云われております。そんな
状況の中でうれしかったのは京橋支部創立七
〇周年記念行事が非常に盛大に有意義な催物で
あったことでもあります。又、内容も実に見事で
評判もよく、記念誌については、各地区のユニ
ークな記事には今更ながら興味深く拝読させ
ていただきました。この成功の陰には支部長始
め御担当の皆様の御協力で大変御苦勞さまでし
た。

またこれからは第四次構造改善事業が始まり
ます。私達の業界もおくれればせ乍ら電子化時代
に突入しますが果たしてそれに対応するには企
業幹部は勿論、全社員の認識と努力が求められ
ます。

企業にとっては次から次へと企業内環境整備
も十分でない所へ時代のニーズがどんどん要求
されてきます。このような背景に得意先からは
見積競争も激安でたしかに現今は、価格の時代
と云えます。私達は大企業とちがって、海外移
転も出来ず国内に残って頑張らなければなりま
せん。その様な時、企業は市場(マーケット)
プライスにコストを合わせる努力とリストラは
作業内容の改善、効率アップにあると思われま
すので最大の努力が要求されます。

会社優先の思想も若干変化しつつあるように
思われます。会社、社員、社会が国際化との共
存する哲学も必要であります。

来年度は若干の景気も上向きと云われていま
すので京橋支部組合員の皆様の団結と明るいロ
マンを求めて行くのではありませぬか。

京橋支部創立70周年記念式典

於：銀座東武ホテル

9月17日(金)

曇り空ながら何とか持ちそうな夕刻、午後四時から、東印工組京橋支部創立七十周年記念式典が、銀座東武ホテル三階、龍田の間に於て盛大に開かれました。式典に続き五時からは記念講演会、六時からは祝賀会のスケジュールで行われました。以下その模様を流れて沿って詳述致します。まず記念式典は、荒川副支部長の司会のもと定刻に始められました。



皆様お待ち致しました、ただ今より東京都印刷工業組合京橋支部創立七十周年記念式典を開会致します。

本日は皆様何かとご多忙の中、ご来賓の方々をはじめと致しまして、日頃当支部に対しまして力強いご支援ご協力を頂いております関連業界の方々、そして当支部組合員の皆様多数ご出席頂きまして、誠に有難うございます。心より

厚く御礼を申し上げます。

私、本日この式典の司会をさせて頂きます副支部長の荒川龍治でございます。よろしくお願ひ致します。

では、式次第にしたがいまして、まずはじめにこの記念すべき式典の開会の辞を副支部長の水野雅生より申し上げます。

水野副支部長お願い致します。

「皆さん、こんにちは。本日は東京都印刷工業組合京橋支部創立七十周年の式典に、東京都印刷工業組合塚田益男理事長、中央区矢田美英区長、中央区工業団体連合会平林智司会長はじめ多くのご来臨をおおぎまして、この様に素晴らしく盛大に開催されましたこと、心より喜んでおります次第でございます。誠に有難うございます。

さて、文化の一方の担い手であります印刷が、この地に芽生えましてから百二十年になるわけですが、工業組合としてもいち早く組織されました支部が京橋であるわけでございます。この京橋支部が出来てから七十年というおめでたい時を迎えまして、本日は先人達のご苦労に感謝をしつつ、皆様と共にこの機会を喜びたいと思えます。ご参加の皆様方と

共に七十周年の式典を、ただ今より開催させて頂きます。」(拍手)

水野さん、どうも有難うございました。

続きまして、本日記念式典を迎えるに当りまして、大正十二年九月の創立以来今日まで七十年の間に、支部の運営、発展にご尽力頂きました大勢の諸先輩がいらっしゃいますことは申し上げるまでもございません。しかし、天寿を全うされた方、あるいは病に倒れた方、あるいは大戦のなか異国の地の戦場において心ならずも亡くなられた方々など、多数の諸先輩がおられます。本日のこの晴れの式典を迎えることなく先立たれていらつしやいます。その数百六十二名であります。支部七十年にわたりますその間に培われた、この京橋支部の光輝ある歴史と伝統の礎になったと思われまふ今は亡き諸先輩に対して、感謝の念と共に謹んでご冥福をお祈り致したいと思えます。皆様恐れ入りますが、ご起立をお願い致します。僭越でございますが、司会者の黙禱という発声と共に黙禱をお願い致します。黙禱。黙禱終ります。有難うございました。どうぞご着席下さいませ。

私ども京橋支部組合員、本日現在二百三十二社でございます。この京橋支部を代表致します

てご挨拶を支部長神林克明より申し上げます。
神林支部長お願い致します。



「皆さん、こんにちは。本日は東京都印刷工業組合京橋支部創立七十周年の記念式典で大変お忙しいところをご来賓の皆様のご参列を御礼申し上げ、盛大に記念式典を迎えることは私と致しましてはこの上ない喜びでございます。京橋支部を代表致しまして厚く御礼を申し上げます。

さて、京橋支部は大正十二年九月八日の支部発会式を目前にして、関東大震災により壊滅的な打撃を支部員百二十社は受けました。先人達はその苦勞のなから立ち上りまして、やがて昭和の大恐慌、第二次大戦、敗戦と混乱のなかにも繁栄を続けてまいったわけですが、その歴史の歩みのなかで私たちの諸先輩たちが営々と築いてまいりました輝かしい伝統と京橋支部のために、私たちは今、将来にむけて飛躍発展をしなければならぬ平成の今日

ややもすれば激しい高波のなかで希望を失いかける時もしばしばございます。しかしこの様な時に印刷の発祥の地であります伝統ある京橋支部の創立七十周年を迎えるわけでございます。その歴史の一瞬を担う者の一人と致しまして、伝統を守り後世に伝えていく責任を改めて自覚するものであります。その様な意味におきまして、本日塚田理事長さんより「二十一世紀をつかむ印刷経営」という題で講演を頂けるのではないかと思います。私たちは今、何を考え、この情報化社会におきまして何をなすべきか、基本である足元をしっかりと見定めながら、時代の環境の変化に機敏に己自身を変えていく必要があるのではない



かと思えます。私たちは明日のためにこの七十周年を機に頑張っていこうではありませんか。支部員二百三十二社の組合の皆様方、この七十周年を節目に叡知を結集致しまして、事にあたらうではございませんか。最後にになりましたが、長年のご苦勞とご功績を諸先輩方に讃え偲び、本日のお祝いとさせていただきます。有難うございました。(拍手)

神林支部長、有難うございました。次に本日出席を頂いておりますご来賓の方々よりご祝詞を頂戴致したいと存じます。まずはじめに卓越した識見と溢れんばかりの情熱

をもって、常に私ども印刷業界においてご指導を頂いております東京都印刷工業組合理事長塚田益男様よりお願い致します。



「京橋支部創立七十周年のお祝いに当りまして、一言お祝いを申し上げますと、もう大正時代でございます。残念乍ら私はこの世の中におりませんので、どの様な時代であったか私自身もわかるすべはございませんが、いずれにしても印刷の発祥の地でございますし、しかも大勢の先輩方が一生懸命印刷業界を育てて頂いて、それが産業になりましたと東京をまとめて支部になっていった。そうした大きな歴史の中で、先輩の皆様方が大変ご努力をして頂いて京橋支部をここまで育てて頂いたということは本当に嬉しいことでございます。設立をされる当初の役員の方々のお骨折り、そしてその後の運営にご努力を頂いた大勢の先輩の方々に對しましても、厚く御礼を申し上げます。

のでございます。そして今日組合を支えて頂いている組合員の皆様方にも、心から感謝を申し上げます。

七十年、大変長い日時でございます。私どもの経営している会社ですらも、会社の寿命三十年などと言われているわけですし、その三十年の壁を突破するために、皆んなが力を合わせて大変な努力をしているのが、皆様方の会社経営だと私は思っていますし、それらの中で、営利を目的として一生懸命やっているのださえも三十年といわれるわけですし、営利を目的としないこういう団体が七十年も続けるということは、よほど皆様方の団結心がなくては続かないことでございます。もう一つは、印刷業というのはよほどいい産業なんだなあと、思わざるを得ないわけですし、そういう意味でも、私としても印刷業はいい産業なんだとつくづく思っておるわけです。ただいいと言っても、齢を重ねればいいというものではないです。私どもこの七十年の間にも、たくさんの変化と山と谷を乗り越え乗り越えして、七十年を過しているわけでございます。ご存知の様に戦争も中に入りました、統制経済の時代もございました。激しい技術革新にゆれた時もありますし、今も技術革新ではゆれっぱなしでございます。その変化を一つ／＼乗り越えて今日があるわけですし、それだけに七十年の年輪が尊いのだと私は思っているわけです。どうぞ今までのご努力、そして印刷はまだ／＼不滅に続くわけ

でございますので、皆様方のご努力をお願い申し上げます。

私どもの成長する産業として成長するというのは、変化があるから成長するわけです。私はよくメタモルホーズという言葉に口にするわけですが、これは昆虫が変態を重ねて、卵から芋虫になり芋虫から蛹になり、そして蝶になって飛んでいく、一回／＼変態をして乍ら成長をしていくわけですし、その変態をするエネルギーが一番大切なわけでございます。この変態をしていくプロセスをメタモルホーズといっているわけです。私ども印刷業界はまだ／＼変態を続けます。活字の時代から写真製版の時代、写真植字の時代、そしてコンピュータの時代と次から次へと変態を続けるわけです。私どもの働き方も変態を続けています。この変態をするエネルギーがなくなった時、その産業は死滅をするというふうに思っております。

六十数年前に、シユンペータという経済学者がおりましたが、彼はインヴェンション／＼發明／＼という言葉と、リノベーション／＼部屋などを修繕する／＼という言葉とを合成致しまして、イノベーション／＼技術革新／＼という合成語をつくりました。そして自由主義のエネルギー、資本主義のエネルギーは技術革新であるということをおっしゃるわけですが、私どもの変革をしていくエネルギー、変身をしていくエネルギー、これこそ私どもは技術進歩をつかまえて、技術進歩に遅れないこと、イ

ノバイションを先取りすることが、私どもが産業として生き残っていく唯一の道だと、私は思っているわけでございます。

七十周年、ひとつの節目でございます。これを契機にまた百年に向って一層のご尽力を頂きまして、立派な印刷業界に育てて頂きます様に、京橋支部の皆様方の折角のご奮闘を心からお祈り申し上げます、大変粗辞でございますけれども、七十周年のお祝詞にかえさせていただきます。本当におめでとうございました。」

どうも塚田理事長、有難うございました。いつも示唆に富んだお話と共に力強いご祝詞を頂きまして、有難うございました。

続きまして、当中央区におきましては、区内有数の地場産業としての印刷業に對しまして、行政のお立場から常にご支援を頂いております中央区区長矢田美英様よりご祝詞を頂きたいと思ひます。本日は公務ご多忙の処、ご出席頂きまして有難うございました。矢田区長お願い致します。

「ご紹介賜りました中央区区長矢田美英でございます。東京都印刷工業組合京橋支部創立七十周年、誠におめでとうでございます。記念式典がこうして盛大にできましたこと心から喜び申し上げます。今日の隆盛を築かれましたことは、歴代の支部長様、役員の皆様方、会員の皆様方のご尽力の賜物でして、心から



敬意を表するしだいでございます。

京橋地区におきます印刷業は、明治初年におきましていち早く西洋の近代印刷技術を導入致しまして、日本の先駆的な役割を果し、この地域の地場産業として不動の地位、立場を築かれたわけです。この間、先程神林支部長さんからお話がありました通り、関東大震災、昭和初期の不況、あるいは戦争、また幾多の困難があつたわけですが、皆様方の堅実な企業努力によりまして一つ／＼解決され今日に至つたわけでございます。これからも大変難しい時代があるでございましょう。ただ今

塚田理事長さんも縷々お話しがございました。しかし印刷業は、先般三十周年を迎えました工団連に最初から参画されまして、印刷業それから産業全体の振興にもいろ／＼とご尽力頂いてきたわけです。区と致しましても一つ／＼皆様方がかかえている難しい問題、これを商工業基本計画はもとより皆様方と、また支部と、知恵を出し力を合わせて解決して、

更に地場産業の振興をはかつていく決意でございます。

京橋支部のます／＼のご発展、これを契機と致しまして、ます／＼会員の皆様方のご健勝、ご多幸、ご活躍を心から念願致しましてご挨拶とさせていただきます。おめでとうございました。(拍手)

どうも矢田区長、有難うございました。

中央区におきましては、印刷・製本業が中心となりまして行政と緊密な連携のもと、区内地場産業の育成・発展を目的と致しました中央区工業団体連合会がございまして、この設立にも、当支部諸先輩方のご尽力によるところ大であると伺つております。また最近ではJST21計画という名のもとに、具体的にその実行が進んでおります。

その中央区工業団体連合会会長平林智司様よりご祝詞を頂きたいと思ひます。

平林会長、お願い致します。

「ただ今ご紹介を頂戴致しました、この中央区で工業団体連合会の会長を勤めさせて頂いております平林と申します。

本日は七十周年記念、誠におめでとうでございます。こうした晴れがましい席にお招き頂きまして心から感謝致します。支部員の皆様のお喜びはさぞかしと思ひますが、本日お見掛けしたところ、中央区以外からも相当大勢の方がこのお祝いに参上していらっしゃる様



であります。有難うございました。

何といましてもこの京橋支部は、中央区の地場産業の最たるものであります。我々の先輩が支部を作ってくれて七十周年。私はこの先輩は本当に素晴しかったと思います。おそらく、これからの時代は組合を作って協力してやっていかねばやっていけないのではないかと、いかという様な先見の明があつて、当時組合をお作りになつたのではないかと思います。それを我々の先輩がしっかりと受け継いで、今日ここで皆様と共に七十周年を祝えるという事は、本当に素晴らしいことでもあります。先輩の作ってくれたこのしっかりとした轍(わだち)を、私たちがしっかりと踏まえて、これからも繁栄していく様に努力していくことが、我々の勤めであると同時に、先程も支部長さんよりお話しがありました様に、文化産業印刷の発祥の地でございます。支部員の皆様、好むと好まざるにかかわらず、皆様はこの業界の一つの目標になつてゐるのではないかと思います。

ます。これからも我々の先頭に立つて頂いてご指導ご鞭撻をして頂きたいと思ひます。最後に皆様方の益々のご健勝とご発展を心から祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。どうも有難うございました。(拍手)

どうも平林会長、有難うございました。

本日はご来賓と致しまして東京都印刷工業組合各支部より、多数の支部長様にご出席頂いております。その皆様を代表致しまして、同じ中央区でございます東京都印刷工業組合日本橋支部支部長長谷川武次様よりお祝詞を頂戴致したいと思ひます。

長谷川支部長、よろしくお願い致します。

「皆様こんにちは、ただ今ご紹介に預りました日本橋支部の長谷川でございます。

本日は京橋支部創立七十周年、誠に御めでとうございます。心よりお喜び申し上げます。またこの栄えある式典にお招きに預り、その



上、多数のご出席のお歴々を差し置きましてこの様な高い所からご挨拶をする機会を頂きましたことは、誠に光栄の至りでございます。これは私ども日本橋支部で、先日七十周年の式典を行ないました際、神林支部長さんにご挨拶をお願い致しました関係で、それに対するご配慮であるかと思ひますので、どうかお許しの程をお願い申し上げます。

その折に、神林さんのご挨拶の中で、日本橋と京橋は兄弟支部である。いつも日本橋支部を兄と思つたというお言葉がありました。それをそっくり逆さにしてお返しした方がよろしいのではないかと思つております。

中央区の産業文化展等におきましても、常に京橋支部の皆様にご苦勞をおかけ致しているばかりでございます。私どもはそのお手伝いをしていただいております。京橋支部の皆様こそ私どもにとつて誠に得難い経験ではないかと思つております。

顧みますれば、今から七十年前我々両支部の先輩が同業組合を結成しました際にも、いろ／＼と相はかり組合設立に踏み切られたことは想像に難くありません。

それからとにも日を經ず致しまして七十周年記念式典を行なえましたことは、誠にもつてご同慶の至りでございます。

またただ今では、中央区という同一行政区の中で同じ商売を営んでいる因縁浅からぬ間柄でもございます。これからも何かにつけてご指導を賜ります様お願い申し上げます。

最後になりましたが、京橋支部のますますの発展と加盟各社のご繁栄をお祈り致しまして、私のご挨拶と致します。皆様どうも有難うございました。」(拍手)

どうも長谷川支部長、有難うございました。なお当席には多数のご来賓にご出席頂いております。ご紹介させて頂きます。

東京都印刷工業組合塚田理事長をはじめと致しまして、副理事長鈴木正明様、同じく副理事長徳山浩一様、他常務理事十一名の方々にご出席頂いております。それに各支部支部長の方々二十名ご出席頂いております。そして中央区の方からは矢田区長の他、助役の笠井洋弥様、中央区地域振興部堀内部長様、同商工課河野課長様、係長の土屋様にご出席頂いております。さらに全国印刷健康保険組合理事長新村重晴様、東京都印刷工業年金基金理事長伊藤哲治様、中央厚生事業共同組合理事長牧野佐武朗様、東京都製本工業組合京橋支部支部長の代理と致しまして長山副支部長様、東京都商工会議所中央支部事務局長奥野茂雄様にご出席頂いております。どうも有難うございます。その他、関連業界の方々四十八名のご出席を頂いております。有難うございます。

それから祝電を多数頂戴致しておりますので、一部披露させて頂きます。

「創立七十周年を祝し今後一層のご発展をお祈り申し上げます」大日本インキ化学工業株式会社代表取締役社長 河村茂邦様。

以下お名前だけを読ませて頂きます。富士写真フイルム株式会社常務取締役安永孝一様、株式会社小森コーポレーション代表取締役社長小森善治様、コニカ株式会社印刷産商事業部長松本政之様、大日本スクリーン製造株式会社取締役社長石田明様、株式会社写研取締役社長石井裕子様、株式会社四国洋紙店代表取締役社長小島博之様、その他多数ご祝電を頂戴致しております。どうも有難うございました。

引き続きまして支部功労者表彰に移ります。支部功労者に対しまして、支部長神林克明より表彰を行ないたいと存じます。かつて本部において副理事長あるいは常務理事として活躍頂いた方々、ならびに支部長と致しましてご尽力を頂いた方々です。まずは神林支部長よろしくお願い致します。

これから社名、お名前を申し上げますので順次ご登壇頂きたいと存じます。支部功労者、日本精版印刷株式会社中村謹吾様、代理と致しまして中村憲吉様、株式会社白橋印刷所白橋龍夫様、代理と致しまして白橋達夫様、有限会社斉藤正文堂斉藤喜徳様、石沢印刷株式会社石沢幸様、株式会社昇寿堂瀬戸昇之助様、代理と致しまして瀬戸恭平様、三進印刷株式会社池宮義久様、ご病気で欠席でございます。東京真宏印刷株式会社久保田幸一郎様、小宮山印刷株式会社小宮山敬之様、株式会社小葉印刷所小葉忠昭様、高千穂印刷株式会社小山英美様、株式会社大竹印刷所大竹次郎様、株式会社久栄社田島一弥様、聖文社印刷株式会社田島弘様、株式会社アイセ

ル長島一磨様、株式会社一九堂印刷所大谷家清様、以上十五名の方々にございます。神林支部長より表彰状と記念品を贈呈して頂きます。よろしくお願い致します。

「感謝状、日本精版印刷株式会社中村謹吾殿あなたは長年にわたり当支部発展のために貢献された功績はまことに顕著なるものがあります。よって京橋支部創立七十周年にあたり支部功労者として敬意を表すると共にここに記念品を贈呈して感謝の意を表します。平成五年九月十七日 東京都印刷工業組合京橋支部 神林克明」

刷工業組合京橋支部創立70周年記念式典



おめでとうございます。(拍手) 以下十四名の方々にそれぞれ感謝状が手渡されました。どうも皆様おめでとうございます。受賞者を代表致しまして当支部顧問であり、また本部参与理事でもございます小宮山様より謝辞としてのご挨拶を頂戴いたしたいと存じます。小宮山様、お願い致します。

「ひとこと受賞者を代表致しまして御礼の言葉を申し上げます。

今日は京橋支部創立七十周年という大変意義のあるこの席におきまして、私ども支部功労者として表彰をして頂きまして、誠に感激の極みでございます。

皆様方におかれましては、各々のお立場のなかで、ある場合は私業を忘れ、ある場合は作業をやめて、支部の育成発展に各々ご努力をなされた方々でございます。いろいろとこの受賞に関しましては皆様方大変お喜びのことと存じます。

さて、私でございますが、実は大変なとまどいを感じております。今日この様な華やいだ空気の中、そして大勢の皆様方を前に致しまして、支部の功労者という様な大変おこがましい表彰をして頂いたわけでございます。考えてみますと、私事になりました恐縮でございますが、昭和二十七年に時の京橋支部長でございました田嶋さんが、当時の平版印刷業者は約二割程度でして、それでは支部の運営の中でいろ／＼と心もなところもある

東京都印刷工業組合京橋支部創立70周年記念式典



だろうというご配慮から、実は他の支部には例はございませんが、京橋の各地区のほかに平版区というのを設けられました。そこに私は所属を致しまして平版区の幹事という様な使い走りを仰せ付かったのが、京橋支部にお世話になったはじめてであります。それ以来主

として田嶋先輩にお仕えて以来本部の方の委員等をいろ／＼やらせて頂いたわけです。いずれにしても私どもは支部の発展に力をつくしたというより、むしろ支部の中にお仕えをして私の拙い一つの人間形成の上で、大いなる役立をさせて頂いたという感銘の方が私には先でございます。

いずれに致しましてもこの様な中におきまして、私もさやかな印刷業をなんとか支部発展の中で今日まで継続させて頂いているという事で、実はそれらの方々のお力添えの中から、私が今日まで来たわけでございます。決して支部の功労者というのに相応しいかどうか、大変に気になるところでございますが、この際はめでたいことでございますので、大いにこの喜びを家族ならびに従業員の諸君と分ち合せて、これからも支部の発展を通じまして印刷業界のいろ／＼難しい局面を何とか生き抜いていく、その支えに、これを機会にさせて頂ければという決意であります。

皆様方も同じ様なお考えでもって今後ともいろ／＼とご努力ご尽力をされるものと、私どもは推察しております。

本日に今日はこの様な席で支部功労者として表彰をさせて頂きまして、誠に有難うございます。今後共一生懸命頑張っていくつもりでございますので、どうかよろしく今後ともお引きまわしの程、お願い致しまして御礼の言葉と致します。有難うございました。

(拍手)

小宮山様どうも有難うございました。今一度、受賞者の諸先輩に対しまして盛大なる拍手をお願い致します。どうぞお席の方にお引き取り下さい。これからも諸先輩からは、大所高所からご指導ご鞭撻の程お願いしたいと思います。感謝状、記念品を添えて表彰をさせて頂いたのは、そのご鞭撻をいくばくかお手柔らかにして頂くとうい、後に続く者としては気持がないわけではありませんが、これからも我々をご指導頂きたいと思しますので、よろしくお願い致します。どうも有難うございました。

いよ／＼この式典も終盤を迎えまして、閉会の辞でございます。副支部長宮入茂三郎より閉会の辞を申し上げます。宮入副支部長お願い致します。

「高い所からご挨拶で恐縮でございますが、お許しを頂きたいと存じます。

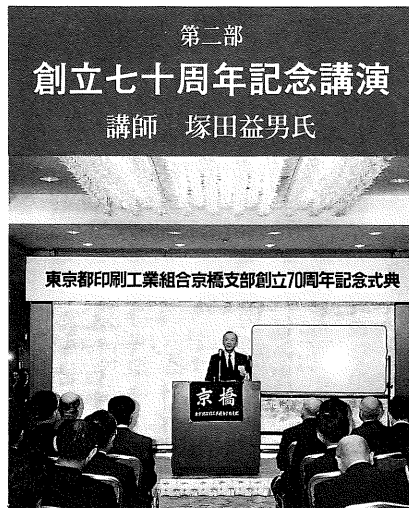
式次第に従いまして進んでまいりました京都印刷工業組合京橋支部創立七十周年の記念式典、ここに滞りなくお開きということになりました。有難うございました。これも偏にご臨席の皆様のご協力の賜物と厚く御礼を申し上げます。

さて景気の動向もまだ不透明でございますが、これからまだ／＼厳しい状況が続くものと思われま。また私どもと致しましてはその後八十年、百年の式典に向けてなおい層一致協力して頑張っていきたいと思致します。ど

うぞご来賓の皆様、また今までと変わりなくこの京橋支部をご支援ご鞭撻を頂きまして、何卒よろしくお願い致します。最後に臨みまして皆様方のご企業のご繁栄と、ます／＼ご健勝であられます様祈念致しまして、ご挨拶とさせて頂きます。

(拍手)

宮入副支部長どうも有難うございました。東



講演会の司会者、松川副支部長が挨拶して、「本日の記念講演は、東京都印刷工業組合理事長塚田益男様よりお話しを頂戴致すことになっております。

今日は私どもの理事長ではありませんが、講演会でありまして塚田先生とお呼びさせて頂きたいと思致します。講演の前に、先生のご紹介をさせて頂きたいと思致します。」

京都印刷工業組合京橋支部創立七十周年記念式典を終了致しますが、私どもはこれを機に、七十周年を一つの節目と致しまして、新たな前進をする第一歩と致したいと存じております。どうも皆様方有難うございました。これを持ちまして終了致します。

なお引き続きまして、この会場で塚田理事長より記念講演を承ります。五時丁度より始めますので、それまで暫時休憩と致します。

塚田益男様 経歴

「一九二七年東京にお生まれになり、旧制松本高等学校理科甲類を経て一九五一年東京大学農学部農業経営学科をご卒業なされ、同年錦明印刷株式会社に入社と共に社長にご就任なさいました。現在は東京都印刷工業組合理事長及びに全日本印刷工業組合連合会理事長をなさっておりますが、多数の要職を経ておられ、第一次から第五次までの近代化計画と構造改善運動を中心となって推進なさいました。また通産省中小企業近代化審議会印刷部会委員としてもご活躍です。社団法人日本印刷技術協会の六七年の設立と共に専務理事として参加され、会長を経て、現在最高顧問をなさっております。印刷業界のオピニオンとして活躍をなさっている現在です。

主な著書に『構造革命と印刷業』『印刷経営のビジョン』『印刷作業のダイナミクス』その他多数のご著書をお持ちになっておられます。」

記念講演


 二十一世紀をつかむ印刷経営
 東京都印刷工業組合理事長 塚田 益 男

「京橋支部七十周年のお祝いにちなみ、不肖わたくし、印刷業界の皆様方と一緒に考える機会を与えて頂き、お礼を申し上げます。

わずか五分ということ、なかなか意に満たないところもありますが……。

私も今は、全工連という形で、中小印刷業界が第五次の近代化計画を作成し、そして第四次の構造改善計画を作成して、現在通産省に書類を提出中です。審議会が十月にありますので、十一月には第一次承諾を得て第五次の近代化事業が始まると思います。

私どもの印刷業界が成長していくエネルギーは、いつも変化に対応していくエネルギーでなくはなりませんし、それは私どもの技術体系が変化をする、それを先取りしていくエネルギー、これが私どもの産業が成長するエネルギーだと思っています。

第一次の自動化の時代、第二次の「活字よきようなら」という形の中で、平版化運動をした第二次近代化の時代、第三次は知識集約化ということ、私どもがソフト化、コンピュータ化をしようと努力をした時代、そして第四次では経営戦略型という中で、もう一度私どもの経営

姿勢、営業姿勢を見直そうという運動、そして今、第五次の運動をやるうとしています。

今日は、この第五次を説明申し上げ皆様方のご理解を頂きたいと思っています。

第五次の私どもの大きなタイトルは経営環境適応型の構造改善です。構造改善というのは皆様方一社一社が経営合理化をしていくのではなくて、業界ぐるみで業界の構造を変えようという運動です。業界が力を合わせて業界全体の構造を変えよう、経営構造を変えよう、生産構造を変えようということです。

いま不景気の真最中です、リストラックチャリングという言葉が盛んに言われています。会社の経営体質を変えようということを言っていますが、最近ではリストラックチャリングではもう間に合わない。これからはリエンジニアリングだという言葉も出はじめています。景気もここまで下り、もしもう一段下るとなるとリストラックチャリングなんかではとても利益の出る構造にはなりきれないので、もう一回自分の会社の経営体質を総洗いしなくてはならない。部分的な体質改善をやっていたのでは間に合わない

いと言われています。そうした中で二十一世紀に向かつて進もうとする時、どういような考え方でなくてはならないかというのが、第五次の近代化かと、私は思います。

そしてこの経営環境適応型というのは、経営環境が刻一刻と変わっているわけですから、もちろん目先の不況に対してどう対応したらよいかという経営問題もありますが、もう一つ大きな流れが私ども印刷業界のまわりに起りつつあります。小さな波は皆様方の経営責任の中で克服して頂かねばなりません、大きな波は一社一社ではとても克服できません。早くつかまえて二十一世紀への対応を講じようというのが狙いです。そういう意味で経営環境の変化ということ、大きな波といっているわけです。その大きな波について、今日お話を申し上げたいと思います。

それでは大きな波とは何か、サブタイトルに電子化と高付加価値化で作る豊かさや生産性のハーモニーという大変長つたらしいものを作ったわけです。この四つがキーワードです。これについてご説明申し上げます。

まず豊かさという問題ですが、私ども印刷業界が二十一世紀に豊かな業界になれるか。政府の方も宮沢内閣時代に、生活大國なる経済計画を発表しています。皆様方も読んでおられると思います、いわゆる今までの生産中心型の社会から生活者中心型の社会へということ。生活者イコール生産者ですから、生活者と生産者は別ものではないわけです。政治の中心を生

産者中心から生活者中心に変えようということ
です。どこからどのように変わるかというの
はつきりしていません。大きな流れをそ
ういう形で流そうということで、中味を見ますと、三
つの大きなタイトルがあります。

一つは、ゆとりと豊かさを国民一人一人が実
感できる社会をこしらえよう。二つめは、多
様な価値感を国民一人一人が実現できる機会を等
しく与えられる社会を作ろう。三つめは、簡
素なライフスタイルを美しい生活環境の中で実現
できる社会をこしらえよう。

私はこの文章を読んで、あるかなり偉い代議
士に言ったんです。簡素なライフスタイルを国
民に期待して大丈夫か。給料は下りますよ、し
かしのんびり出来ますなどという簡素なライフ
スタイルを国民に要求して納得するでしょうか、
納得するわけがありません。サボれば必ず所得
が減るわけですから。所得が減れば簡素なライ
フスタイルだなんて、そんな社会が出来るはず
ありません。言葉ではなんとでも言えましょ
う。多様な価値感を実現できる、にしても、国
民一人一人が立派な思想を持って自分はこう思
うと、思想を展開できる国民になったら、日本
は大変な国になるわけですから、こんなこと実
現できるわけがありません。このように代議士
に話しましたら、それは塚田さんの言う通りで
すよ、役人だから美辞麗句はいくらでも出来ま
すよと言っていました。

問題はこのような美辞麗句でもって、生活大
国という経済大国の中で法律が出来てしまうこ

とです。豊かさはこういう時代になりますよと
いう法律を作ってしまうわけです。その法律と
いうのは、来年四月から週四十時間制にする
ということ。平成九年からは総労働時間千八百時
間にしたい、そして中小企業は来年四月から週
四十時間では大変だから、三年間の猶予期間を
与えましょう。もうすでに始まっています、
有給休暇を今まで六日間だったのを最低十日間
にするという具合に、いろんな問題が出てきま
す。豊かさを守れというわけです。そうすると、

私どもの印刷業界も、この豊かさの表現である
労働時間短縮をいやでも守らなければならぬ
ということになります。皆様方は現在約二千二
百時間働いています。今の日本は、全国ですと
会社の決めてある休日日は九十日ぐらいいしかあり
ません。東京で百日ぐらいいです。週四十時間の
休日というのは、どういう休日なのかという
一年間は五十二週あります。土曜日曜両方で百
四日、その他に五月の祭日と、祭日と祭日の間
は休日になるという法律がありますから五月四
日はお休み、祭日は全部で十四日あります。も
し会社が年末年始を五日間とり、会社の旅行や
創立記念日で二日間休むとなると百二十五日
になります。会社が守らなければならぬ所定休
日は百二十五日になるわけです。そこへもって
きて従業員の有給休暇が最低十日になるので、
平均して十二日とします。また勤労統計を
見ますと、病欠で休むのが三日といえますから、
これを入れると百四十日休む。百四十日休んで、
二百二十五日働く。一日八時間働いて千八百時

間になります。そして残業なしという社会にし
ようというわけです。さあ、これが出来るか出
来ないかということです。

いま私どもの東京の印刷業界は、平均して約
百日の所定労働休日があります。それをあと二
十五日増やさなくてはなりません。週四十時間
制ということは、そういうことです。これが出
来るかどうか。その猶予期間があつと三年です。
毎年八日ぐらいつつ休日を増やしていかないと
間に合わない。大変なことだと思います。生産
性をあげる以外に方法はありません。もつとも
休みを何故こんなに増やすのだということはあ
りません。

私は数日前にヨーロッパから帰ってきたばか
りです。ご存知のようにヨーロッパを見ていま
すと、ワークシェアリングという言葉がありま
す。シェアは分けるという意味です。働くのを
皆で分けようという思想です。ヨーロッパに行
きますと、どこの国も平均して十二〜十三%の
失業者がいます。スペインにいたつては二十%
です。何故こんなに失業者が多いのか、今度の
旅行でこれだけはどうしても見ておきたいと思
いました。日本で5%の失業者を出したら大変
なことですよ。日本はいま二・四から二・五%
といわれています。日本の政府は完全雇用の中
で5%も失業者を出したら、大騒ぎになるだろ
うと思います。だからどんな社会になっている
のか見たかったです。

もう一つは、消費税の3%で多いの少ないの
といっていますが、ヨーロッパに行くとき十七・

五%、十七・五%の消費税はどうなっているのか、この目で見たかったというのが、大きな目的だったのです。今日は時間がありませんのでお話しできませんが、いずれにしても失業者が大勢いるから、ワークシェアリングでお互い仕事を分け合おうじゃないかということです。日本は完全雇用の社会ですから分ける必要はありません。それなら何のために時間短縮をやるのだということになります。

向こうをまわっていて面白かったのは、ワークシェアリングの仕方、今までは時間短縮ばかりやればよいという発想でした。ご存知のようにヨーロッパは、日曜日は全部仕事を休め、観光地だけは仕事をしてもよろしい、それ以外は日曜日は休まなければいけないと、フランスではいつています。それが土、日曜日も働こうじゃないか、働くのをワークシェアリングしたが、どうもこれは間違いだ、土、日曜日も入れてワークシェアリングしようという新しい考え方が出てきました。まことに合理的だと思います。土、日曜日が休みで活気のないヨーロッパですが、それでは活気がなくなりすぎるということで、働き方を変えようと言いつつあります。何時から何時までという固定的労働時間を弾力的にしないといけないので、労働時間の計算も週単位でなく年単位にとろろじゃないかと。それはそうですよ、残業は週三時間まで認める、それは五十%、四時間以上は百分の割増賃金を払えといわれています。これを週単位でやられたのでは大変ですから、年単位にしよ

う。そうすれば、忙しい時にまとめてその三時間を使い、暇な時には残業なしでいくのだと、そうすれば、年間五十二週の中で三時間、百五十六時間が五十%でいけますから、忙しい時にそれを持ってくればよいと。フランスで、五ヶ年計画の中で年単位の時間計算に変えようと始まっています。いずれにしても、そういう世の中でワークシェアリングという問題を考えているわけです。

私どもの日本はそのようなことを考えるゆとりは全くありません。私どもが時間短縮をやるのは何のためなのか、それは偏に豊かさをあげるためです。時短をしたら生産性を補わなければならぬ。

そうすると、私どもの印刷業界では豊かさのために時間短縮をする、短縮をすると機械が動かなくなる、ということは貧しくなるのです。生産性には人間の生産性、機械の生産性いろいろありますが、機械の生産性をあげようとするば労働時間の短縮にはなりません。この矛盾した二つ、豊かさとは生産性の矛盾した概念のハイモニーをとって、うまくやるためにはどうしたらいいのかというのが、今回の構造改善の大きな一つの目標だと思っています。

私どもの印刷業界は、生産性をあげようとするれば、必ず機械のはや回し運動をやってしまうわけです。機械のはや回し競争をやれば値段が下って、印刷業界は物的な生産性はあがりませんが、価値的な生産性は落っこつてしまいます。努力をして高い機械を買っても努力をすればす

るほど貧乏になってしまうのです。

私も印刷業界に入つて今年で四十二年目です。四十二年前に先輩から印刷業界の印刷値段表をもらいましたが、それと今の値段表を比べますと、四十二年前の方が高いのです。今の方が安いのです。こんな業界なんてどこにあるのだらうと思うくらい、印刷の値段は全くあがらないのです。はや回し競争をやればやるほど、合理化運動をやればやるほど苦しくなります。確かに私も四十二年間経営していて、手ざし時代の印刷業界の方がはるかに儲かりました。売上げで三割ぐらい利益を出して、事務所からお前馬鹿じゃないかと、叱られたくらい儲かりました。今の方が全然儲かりません。

儲かるということ、はや回し競争をやつて生産性をあげることとは、どうも矛盾をしまうということになる。そこで私どもの生産性のあげ方というもの、もう一回考えなくてはいけないわけです。

生産性には人の力である生産性と、機械の力である生産性の二つがありますが、今回は機械である生産性の方は排除します。従って加工高から減価償却だとかリース代とか賃借料だとか全部はずしてしまい、残った人的な力である計算を純加工高として、私どもの経営の指標にしよう、今回の構造改善で言っているわけです。もちろん機械の力を無視するわけではありませんが、あまりに機械に準拠しすぎた印刷業界を、そろそろ機械をおいてもう一つ何か加工高をあげる智慧を出そうではないかと

うことが、今回の構造改善の目玉でもあるわけです。

それではそれは何かといいますと、そのための方策として電子化と高付加価値の二つを出そうというのが狙いです。電子化と高付加価値化これが次の時代を担うキーワードになるわけです。

この間アイベックスに行って帰ってきたばかりですが、もう数日すると日本でもアイガスが始まります。そうすると皆様方も新しい印刷業界をご覧になることが出来ます。今回私がイギリスまで行きなかった理由は、日本には出ていないアイガスがあるからです。

電子化の流れについて、いくつかお話を申し上げます。

昔は活字文化というのがありました。その活版印刷の技術は、その活字文化を代表する技術でした。私は今から二十五年ばかり前に「活字よさようなら、コールドタイプよ今日は」といったのですが、コールドタイプは文化にならなかったです。写真植字は印刷会社の片隅で使われただけで、社会の中に入っては来なかった。ところが今、電子文字は社会の中に入りました。ワードプロセッサは私どもの日常生活の中に入って日常的に使われるようになりました。文字を拾うこと、文字を組むことは、昔は印刷業界の重要な技術でしたが、この技術は全部コンピュータの中に入ってしまつて、今はアマチュアがやる時代です。そういう意味で「文字組版さようなら」といつているわけです。文字

組版の第一次はアマチュアがやることで、二十世紀には皆様のところに入ってくる原稿はフロッピーディスクで、書き原稿は入つてこなくなるでしょう。それは当り前です。

ところで私は昭和五十四年の頃でしたか、今から十四、五年前に「レンズよ、さようなら、メモリー今日は」といつたら、皆に笑われました。皆がカメラで撮っている時でしたから、何をいつているんだといわれました。それから五年ぐらいたちますと、白黒の平面スキャナーが出て、今は写真はほとんどスキャナーを使う時代になってしまいました。カメラではきれいな写真が撮れませんからね。「レンズよ、さようなら、写真のカメラもさようなら」ということは、写真製版もさようならということですよ。

文字組版さようなら、写真製版さようならということになりますと、私どもの印刷業界は、これまで文字組版、写真製版、刷版、印刷、製本があつて各々特化をしていて、各々に業界があつたのです。それをまた新しい印刷業界に作り直さなくてはならなくなります。当り前のことです。

今度、欧米社会の中で最も先鋭的に出てきたのが、アイベックスです。私はアイベックスだと、いろんな所に行きますが、今回もエキサイティングな思いで、会場をまわってきました。二十一世紀の扉をちょっと開けてみましたら、奥の方に二十一世紀がビーンツと光つて見えた。二十一世紀が見えたぞという興奮した思いで、見たわけです。それはどんなことであつたかと

申しますと、どこのブースに行つても、デジタルデータアップレイトですね。デジタルレイトとか、ダイレクトプレイトとかいいます。今まではPS版を焼く時に、フィルムを置いて焼いていたのですが、今はデジタルデータから直接プレイトに焼いたらいいじゃないかということ、すなわちフィルムレスの印刷業界、フィルムを使わない印刷業界が出来ようとしています。二十一世紀になれば一般的になるということでした。今度のアイガスでも、多くの会社がこのデジタルレイト、フィルムレスの印刷業界へのアプローチをしているはずですよ。

もう一つの問題は電子印刷です。ワードプロセッサの印刷機も出力機も一種の電子印刷機の一つですが、白黒の写真を、ゼロックスその他が、BSフォームに電子印刷をしようとしています。まだ日本ではそんなに普及していませんが、欧米ではどんどん使われようとしています。ゼロックスさんなどは夢中になってその開発をやっています。白黒の世界のものは、オフィスの中でもコンピュータを使ってどんどんフロッピーディスクなり、MOディスクに溜めようと努力をしているわけです。それから白黒の印刷物を出すことはむずかしいことではありません。ボタンを押せば出てくる。コピー感覚で出てくるわけですから、BSフォームであろうと、小冊子であろうと出来るわけです。

今度もいくつかのメーカーが、「塚田さん、うちのも見てください」と言ってきましたが、見ていたら時間がありませんし、ボタンを押して

ばこつと出てくるものは、プロの仕事ではありませんので、私は見ませんでした。問題はカラーの分野が、そういうようになってきたことです。

今回特徴的でしたのは、イスラエルのインディゴ社という会社のEプリント一〇〇〇です。A3判の四色刷です。版胴の所にレーザーイメージングをして、それに液体トナーで液体トーニングをし、一回一回版が変わるのです。

例えば、一頁から百頁のものなら、A3判です。A5判なら四頁を一頁から四頁刷つて、五頁から八頁刷り、一回一回版を取り替えます。何回かまわりまわすと、百頁が一冊ぽんと出てきます。折って帳合して綴じて出てくるのです。回転はA3判で一時間四千回転出てきます。今みたいに、版があつて五千部なら五千部まわし、一折終えたら横に置いて、二折を刷つて三折を刷つて、全部刷り終えたら製本屋にまわしてということではないのです。一部ずつ出てくるということ。これは四千回転ですから、四色刷の場合は紙をくわえたまま黄色を刷つて赤を刷つてという具合に四色刷りますので千枚しか刷れません。だからEプリント一〇〇〇ということになりません。もし、くわえかえをしますと八回まわさないといけないので、一時間に五百枚しか刷れないことになりません。しかし両面刷にしますと、五百枚しか刷れません。

アメリカのダネリアンズサンズという会社がオンデマンドプリントングということをしていました。お客様の要望に応じて、百部ほし

いといえ百部、五百部といえ五百部印刷する。会社の社内報などは三百か五百部というのがたくさんあります。皆様の会社ではどうですか。例えば、五千部とか一万部の本だつて全頁カラーで印刷をやつたら、製版代に八十%かかってしまう、印刷代なんてわずかでしよう。だから五千部の本でカラーなど使いません。まして社内報なんかカラーをやつたら高いものになります。印刷は自由にできることになりません。印刷は自由にしていいものにするようになってきたということです。機械の値段は二千万円ほどです。フルオペションで四十万ドルということで日本に入ります。凸版さんが独占的に一九九五年まで全部入れられるわけです。来年からアメリカのドラックスコーポレーションという、アメリカで三番目に大きい会社に三ヶ台で入ることですから、何百台か入ります。日本の凸版さんに入るのは二ヶ台ということですから、何十台かということ。

もう一つ、ザイコン社という会社が巻き取りで、同じようにカラーの電子印刷機を出しました。刷り物は大変よい印刷物だと私は思います。ザイコン社はアルファ社がクロマプレスという名前を出しています。クロマプレスはアメリカアルファ社とあと七社といえますから、その中でもアメリカが一番大きいダメリアンズサンズが財政的にバックアップして開発している機械です。私は発表がすこし早いのではないかと思います。私はずれにせよインディゴ社

が先にEプリント一〇〇〇を発表しましたので、負けてはならじと発表したのでしょうか。技術的にもうすこし問題を残していると思いますが、ダメリアンズサンズがバックアップしていますから、馬鹿にならないと思います。

もう一つは、プレステック社が出しているプレステックパウルトクノロジーという機械があります。ザイコン社のもは発光ダイオードCDを使ってやっていますので精度は少し落ちます。皆様方もハイデルベルグGTDをご覧になったと思いますが、あのダイレクトイメージングは使いものにならないとお思いになったはず。あれはスパークディスプレイといって、感光面のイメージングする所をスパーク破壊していたので、うまくいかなかったのです。今度はレーザーイメージングをしていますので印刷物は非常にきれいになりました。四色同時にイメージングするのに十二分ですから、刷り出しまでに十五分以内で刷り出せる。A3判見事です。これは二万通しまでいくといえますから、今後の問題だと思えます。今はハイデルベルグのつていますが、いずれこの機械にものせられるといっています。小森さんや三菱さんの機械にもプレステック社の三つの概略をお話しましたが、これはどういふことかというプレイトレスなんです。刷版がないのです。少数のもの、一万部以下のものについては、これからの技術はフィルムレスであり、プレイトレスの印刷業界ができるような感じがします。これはみな中小企業の私どもの分野なんです。

一万部以上はこれまでのように刷版が使われるでしょう。それもフィルムレスの刷版が使われるでしょう。そうなる私どもは今、何をしなければならぬかということですが、DTPカラー写真と文字とのインテグレーション統合化、一頁の中に文字を入れたり、カラー写真を入れたり、イラストレーションを入れたりします。ワークステーションの上で自由に編集をすることの出来る印刷業界でなければ、印刷業界といわなくなることです。編集したものはマグネットテープか、MOディスクにしまい込んで、それを印刷機にまわすのだけということになります。従って印刷のオペレーターも、これからはデジタルデータのことが解らないと、二十一世紀には通用しなくなります。営業マンから始まって、企画プランナーの連中がいて、デザイナーがいて、そしてレイアウトする人間がいる、これら全部が同じ種類のポストスクリプトデータを使得って仕事をすることになります。アドビ社のポストスクリプトというソフトは、

一種のオペレーションソフトウェアですが、これは世界中を席巻してしまいました。IBMであろうと、どこであろうと、あれを使わなければ仕事にならなくなりました。そして世界中がポストスクリプトのオペレーションシステムに変わってきたわけです。そういう中で私どもの印刷業界は構築されていくわけです。

今、マッキントッシュといっても、パーソナルコンピュータですから、もう一段高いコンピュータのワークステーションを使わなくては

いけないだろうとか、会社の規模によって、またはデザイナーのところはマックでもいいだろう、レイアウトしたり編集したりするところは、高いものが必要であろうとか、いずれにしても私どもの仕事はコンピュータと仲良くしなければ仕事にならないということは間違いないからです。今すぐなるわけではありませんが。

これから五年間かかって皆様方と一緒に勉強していくわけです。私どもが今企画している構造改善は、この十一月には大臣承認を得たいと思えますが、実質的に初年度は一九九四年です。四、五、六、七、八、一九九九年の三月に終了します。一九九七年三月に第五次の近代化計画が終わるということは、翌年は二十一世紀、二〇〇〇年という年を迎えるということ

です。私はこの間、二十一世紀の印刷業を見てきたわけですが、フィルムレスそしてプレイトレスの印刷業界は、これからのように出て来ていくのだろうか。そして新しいマーケットになるわけです。先に言ったように五千部以下の仕事の方が点数ははるかに多い、週刊誌は部数はたくさん出ていますが、九十点ぐらいです。五千部以下のは何万点と毎月毎月出ています。社内報など入れたら大変な数ですよ。その分野がこれからカラー化していくのですから、カラー化にしては今の写真製版では高いコストがかかり駄目です。カラーDTPを使って、今のコストを半分以下に下げなければ駄目です。そうすればうちの仕事も三千部だがカラーを使

おうかということになります。そうすると企画デザイナーの所から、私たちの仕事量は一気に増えます。

今から三十年ばかり前、一九六〇年代の初頭、カラーテレビが出た時アメリカのマクロハンという学者が、これで印刷業界はなくなってしまうだろうといつて、大騒ぎをしたことがあります。しかし豈^{あた}図らんや一九六〇年は黄金の印刷業界でした。なぜならば、社会がカラー化をしたことで、今まで一色の印刷物が全部四色刷になったからです。

十五年前ぐらいにゼロックスが出来ました。今のサイテックスだとか、シグマグラフ、ページマティックなど、現在のトータルスキヤニングシステムというのが出来ました。あれが出たことよって、一頁の中に十五点も二十点ものカラー写真が入り、それもびたっと合って仕事が出来るようになり、このように厚いカタログ印刷が出来ようになりました。そのためにカラー写真を撮るスタジオがたくさん出来た、デザイナーも必要になってきた、スタイリストも必要になってきた、印刷のプリプレスの前の所でたくさん価値が生まれるようになった。一枚の紙が三十年前に比べると何十倍にも付加価値が高くなりました。

私たちはこれから、眠っている五千部、三千部のところのカラー化をすることによって、新しいマーケットを作るのです。欧米のいろんな本を読んでいますと、少数数のカラー化が今後どのように成長するかわからないけれども、も

しうまく成長すれば大変なマーケットになると書いています。私もそう思います。新しいマーケットを育てるかどうか、これは実は私どもの中小企業の仕事だと思っています。

欧米の連中はすでに DTP の所を卒業しようとしています。だから、その次は、そのデータを使って印刷するにはどうしたらいいのかというので、電子印刷が始めているわけです。ここは日本の方が遅れてしまいました。だから誰かが頑張らなければならないかといえ、私ども中小企業が頑張らなければならない。二十一世紀は遠くて近いわけです。そしてそのためには私たちの頭の切り替えが必要です。従来の働き方も変えねばなりません。先に申しましたように、ヨーロッパでさえ土・日曜日をワークシェアして働こうといっていますし、働き方も週単位の計算でなく年単位にしようといっています。

この間、労働基準審議会の書類を見ていましたら、裁量労働というのが出てきます。これは皇太子妃になられた小和田雅子さんの働き方です。残業も何もない、夜は一時二時まで働く、自分の働き方は自分で裁量する。ところが労働省は、そんなことを皆にやられたら目茶苦茶になつてしまう、裁量労働をする職種については、今の時点ではこれ以上細かく審議するのは早いから建議を見送るなどと書いていますが、いずれにせよ、こうしたことが話題になる時代です。フレックス制など当りまえのことです。世界中が自由勤務の中で、自分の仕事は何だか解らな

いような人間は二十一世紀には産業人としては失格です。自分に与えられた任務は自分で全うする、こうした印刷人をどこまで育成できるか、これも私たちに課せられた課題です。

二十一世紀は目の前ですが、その二十一世紀の姿は、かなり今とは違ってくると思いますので、皆様方のご努力をお願いしまして、私の話を終わらせたいと思います。(拍手)

どうも塚田先生有難うございました。大変短い時間の中でいろいろとお話を頂戴致しまして有難うございました。



なお日本印刷技術業界から『二十一世紀をつかむ印刷経営』というところで、今のお話の詳しいことが書かれておりますので、皆様もご一読お願い致します。

ここで神林支部長より塚田先生に記念品を贈らせて頂きたいと思っております。よろしくお願い致します。

今日はどうも有難うございました。改めてもう一度盛大な拍手をお願い致します。



これもちまして、第二部記念講演を終らせて頂きます。なお引き続きまして六時より二階桜の間におきまして懇親会を行います。時間がないので速やかにお移り頂きたいと思っております。どうも有難うございました。



第三部の祝宴は六時から二階桜の間にて十文字副支部長の司会により始められました。遅れて駆け付けた方も含めて総勢約二五〇名の方々に前に、神林支部長が御礼の挨拶を簡単に行った後、石澤幸顧問によって祝辞が述べられました。鏡割りは久保田幸一郎顧問の他、九地区を代表して京橋地区―秀英堂紙工印刷(株)・坂田利正氏、銀座地区―(株)文海堂・松岡繁夫氏、新富地区―信誠印刷(株)・小林晃氏、築地地区―福田印刷工業(株)・福田満洲雄氏、入船地区―文英堂



第三部
創立七十周年祝賀パーティー



印刷(株)・畑井健良氏、湊地区―(有)中山印刷所・中山英男氏、八丁堀地区―(株)三田村印刷所・三田村桂太郎氏、新川地区―伊坂美術印刷(株)・伊坂元延氏、月島地区―安西一誠堂印刷(株)・安西定治氏の方々が登壇して、二つの酒樽の前に立って「よいしょ」の掛け声と共に、威勢よく鏡割りが行われると共に、予め黒塗りの升につがれていた杯で、祝杯があげられて、斎藤喜徳顧問の音頭によって「乾杯」をしました。このあと歓談に移り、それぞれ輪になって各テーブルで、にぎやかな談笑がくり広げられました。宴会半ばではアトラクションとして、シャンソン歌手の井芹女史、ラテン歌手の平女史、そしてピアノ演奏の豊島裕子女史のメドレーで、それぞれ美声を披露して、参会者の手拍子も加わって宴を盛り上げていました。それが終ると七十周年記念誌の編集委員の紹介があり、壇上に十文字康雄氏、松川昭義氏、篠倉正信氏、榎本則義氏、そして(有)デイグ企画の杉井美晴さん、高野愛さんの二名の編集委員が登壇して、盛んな拍手を浴びました。その後、京橋支部印刷人青年会の会員も壇上に並んで、永井会長より挨拶

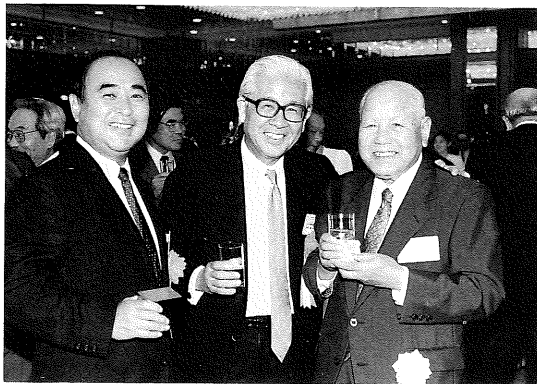
しました。大メが近づき東印工組常務理事・小山英美氏が参会者へ御礼の言葉を述べたあと、両手を高々と挙げて万歳三唱、参会者全員これに和して、京橋支部の歴史に燦然と残る創立七十周年記念行事は華やかな中にも格調高くお開きとなりました。会場出口では神林支部長以下役員全員と有志会社からお手伝いの大勢の美人受付嬢が、参会者をお見送りをし、この大事業は滞りなく目出度く終了しました。

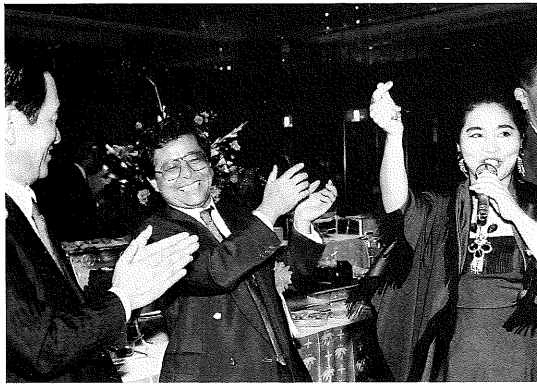


東京都印刷工業組合京橋支部創立70周年記念



祝賀パーティ風景



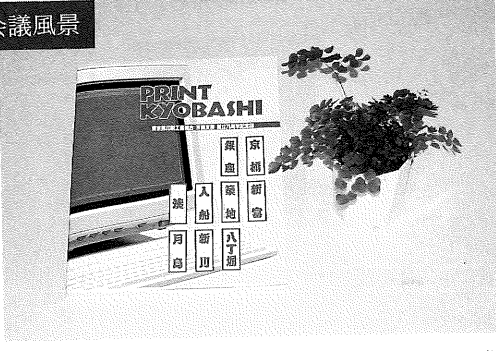
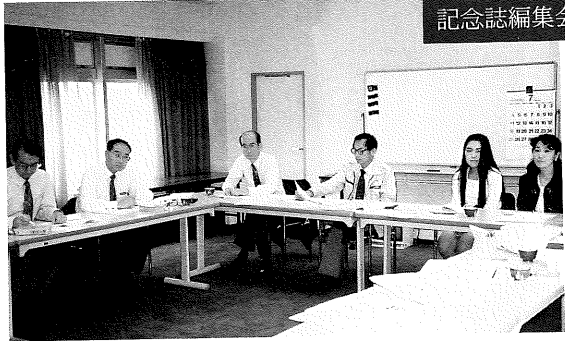




◆七十周年記念行事スタッフ一同◆



記念誌編集会議風景



永年勤続従業員表彰式開催

—百三十三名が受彰—

10月8日(金)
於・京橋会館

10月8日(金)、6時に京橋会館七館、月光の間
に於て、京橋支部永年勤続従業員表彰式が、行
われました。司会の松川副支部長が開会を宣し
て、荒川副支部長が開会の辞を述べました。

「皆様、本日はひどい雨の中を、お越し下さい
まして有難うございます。永年勤続は企業に
とつても重要な事であり、継続は力なりという
事がありますが、何事につけ継続する事は大事
な事ではないかと思ひます。皆様方の永年勤続
に対し、心から敬意を表するものです。ではこ
れから表彰式を開会したいと思いますのでよろ
しくお願い致します。有難うございました。」
(拍手)、続いて神林支部長が紹介されて次の
ように挨拶をしました。

「皆様今晩は、本日は東京都印刷工業組合京橋
支部従業員表彰式に雨の中を多数、ご出席下さ
いまして、有難く感謝申し上げます。本日は永
年勤続のお祝いを心からお慶び申し上げます。

さて今日は、5年、10年、15年の勤続の方々
133名の内、本日出席をされた方は80名でござ
います。皆様方は各企業の職場に於きましては、
誠実に、それぞれ優秀な技量を、充分發揮して
各企業の発展にご尽力戴いているわけです。

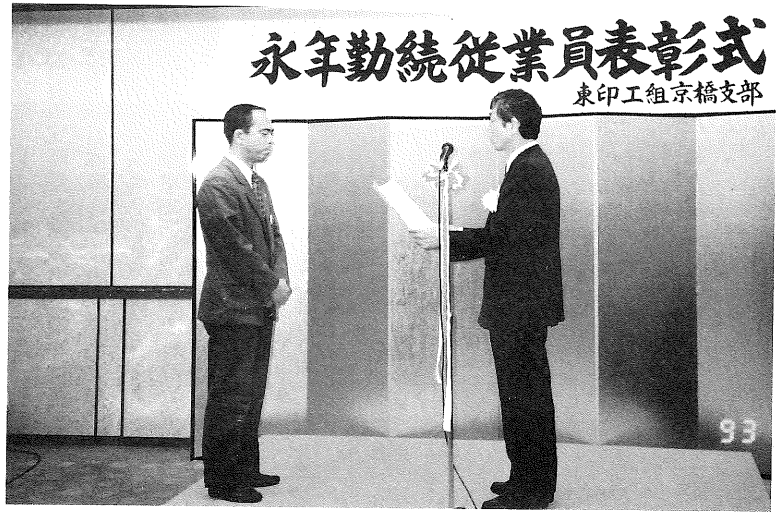


私共、印刷産業のためにもご貢献戴いており
まして、この皆様方の心情に對しまして、心か
ら敬意を表します。この大変に厳しい時期に、
5年、10年、15年、と同じ一つの職場で働く事
は仲々、至難な事ではないかと思ひます。その
中で、皆様方の健康が、非常に大事ではないか
と思ひます。そしてやはり、仕事に對して傾け
ていく情熱と固い意志がなければ、ややもすれ
ば坐折する時もあったのではないかと思ひます
その中で、今日、5年、10年、15年と勤続し
て戴き、共にこの印刷業を發展させて戴いて
るわけです。先月17日に京橋支部は創立70周年
の記念式典を行いました。70年と申しますと、
大正12年9月1日の関東大震災の直前に発足し
まして以来、諸先輩の方々が、立派に印刷産業
文化のために努力をして参りました。その中で、
今日、皆様方とこの環境の中で一緒に働けると
いう事は、大変幸せな事ではないかと思ひます
この幸せを21世紀へ向いまして、増々發展する
ように皆様と一緒に努力してゆきたいと、一つ
ここで、誓いを申すといひましようか、そうい
う氣持を新にして戴きたいと思ひます。

これから感謝状の贈呈があります。そのあと、
些やかな祝宴がありますが、今日の佳き日を皆
様とゆつくり御飲談戴いて、皆様それぞれが、
21世紀へ向つて飛躍する事を、お願いして、皆
様のご健康と各企業のご發展を祈念しまして私
の挨拶とさせて戴きます。どうもおめでとござ
いました。」(拍手)

続いて、表彰に入り、5年勤続62名、10年勤

続42名、15年勤続29名、合計133名の内、5年勤続者を代表して、ミズノプリテック(株)、北田久寿氏へ、神林支部長より表彰状が読み上げられて、記念品の図書券と共に手渡され、拍手を受けました。同様に、10年勤続者を代表して、秀英堂紙工印刷(株)、田上憲治氏、又15年勤続者を代表して、(株)久栄社、小林正夫氏へ、それぞれ、神林支部長から、表彰状と記念品が手渡されて、拍手の内に表彰を終わりました。続いて来賓の



祝辞に移り、まず東印工組常務理事、小山英美氏が挨拶しました。「皆さん、今晚わ、私は今、来賓として紹介されましたが、この京橋支部の組合員でございます。先輩方がご出席でございますが、お許しをえて、立場上、ご指名でございますので、皆様にお祝い御祝辞を申し上げます。さて東印工組京橋支部従業員表彰式に、133名の多数の方が受彰の榮譽を受けられます事は、非常に、私共、頼もしく、又印刷を将来の心として志ざす同じ仲間として、心から敬意を表して、皆様へお祝いの気持を表わしたいと思えます。おめでとうございます。先日9月17日には、京橋支部創立70周年記念式典ございました。

70周年の節目を振り返り、先輩方のその功績

に對しまして、感謝を申し上げた所でございます。そういった行事も皆さん方の普段のその支えによりまして、支部の発展又は、支部の歴史的行事が立派に行われたものと思っております。さて現在、いまだ嘗って経験した事のない不況のさ中にあります。その中にある我が印刷産業が他産業の業種と比べて、よく健闘している、このように見受けられます。東京都の地場産業として、印刷業が売上げに於て、第1位の位置を占めております。又、平成4年度の印刷業の売上げは、工業統計によれば、約7兆7千億円であります。これは平成4年度の発表です。恐らく平成2年度の金額ではないかと思えます。これから21世紀も間近です。その時点では印刷産業の売上げが、15兆円と予想されています。これからの印刷産業を、より一層発展させるために、私共の業界組織であります、全国印刷産業連合会では、資金助成が受けられる、第4次構造改善計画が只今、その事業を継続中でございます。構改の事業計画を通産省に提出しまして、11月に認可がおりる事になっております。即、構改事業が発進する訳であります。その中にこれからの難しい印刷業界を乗り切るために4つのキーワードをその柱としております。それはまず、電子化、高付加価値、豊かさ、生産性と、この4つの足場に追い続けまして、これからどんな環境になろうと、構造改善事業という事で、我々の業界体質を固めていくという事でございます。本日表彰された皆様が増々、ご健康に留意戴きまして、それぞれの職場に於



てなくてはならない立派な人材として、ご活躍されますように私共は期待をしております。
 又、20年以上の永年勤続の表彰は、東印工組にて行いますので、どうぞ皆さん今後も表彰を受けられますよう、大いに期待をしております。ご家族の皆さんがあつてこそその我々働き手であ

「ご紹介を戴きました工団連会長の平林でございます。本日はこうした晴がましい席にお招きを戴きまして、ご挨拶をさせて戴く事を心から光栄に存ずる次第であります。昔からの諺のように石の上にも3年とか、10年一昔とかいう諺がありますが、今日は10年、15年、というほんとの永い間、この業界にお尽し下さいました表彰でございます。5年の方はあと5年で10年、一昔に到達するわけでございます。どうか一つ、しっかりご勉強なさって、10年、15年と又表彰を受けて戴くようになって欲しいと思います。15年勤続の方は20年、30年、40年と業界の繁栄のために働き戴きたいと思ひます。」



ります。ご家族の皆さんのご理解とご協力があつて我々の今日、又明日があると思ひます。
 ご家族ご一同様を始め皆さんのご健勝とご多幸を祈念申し上げます、重ねて今日の受彰の慶びに衷心より敬意を表しまして、感謝の気持ちを込めてお礼を申し上げます。おめでとうございました。(拍手) 次いでもう一人、中央区工団連会長、平林智司氏が司会者に紹介されて、次のように挨拶されました。



私はいつも思うのですが、自分が入社した時に言われた言葉をいつも思い出して、新しく入って下さる社員の方に、あなたは印刷をどうして選んだのですか、この業界をよく知っていて、選んだのですか、それとも知らずにおいて、選んだのですか」と聞きますと、中にはよく知っていて来ましたという人もいますが、ほかの人には、あなたはほんとにいい職業選びました。印刷というのは素晴らしい職業ですよと、

こう言います。文化の担い手だとか、いろんな事が言われますが、これは勿論の事、自分が一生涯につける職としては、これ程いい職はありません。私もかつて日本駄衛門という位、いろんな職をへて最終的に印刷へ辿り着いたのですが、私の進む道であるとはつきり思いました。何もやってもやはり何か物足りない、それがこの印刷という職を得た時に、何か心暖まるものがありました。まあ確にこの文化を担う大切な仕事ですので、やり甲斐があるという事がその根拠ではないかと思えます。そこで皆さん、これからどこもそうですが、印刷界は特に電子機器、先程、ご挨拶にもありましたように、電子機器の活用で素晴らしい発展を遂げますが、その代り難しい局面にぶつかって参ります。勉強こそがそれを解決する方法ではないかと思えます。どうか一つ 5 年、10 年、15 年というキャリアをしつかり身につけて戴き、後輩を育てて戴きますように心からお願ひする次第です。まだまだ我々の発展する余地は充分あります、頑張つて努力すればそれだけの事はある業界であります。皆様のご精進を心からお願ひする次第です。皆様のご健勝を願ひましてご挨拶とさせて戴きます。おめでとうございました。(拍手)

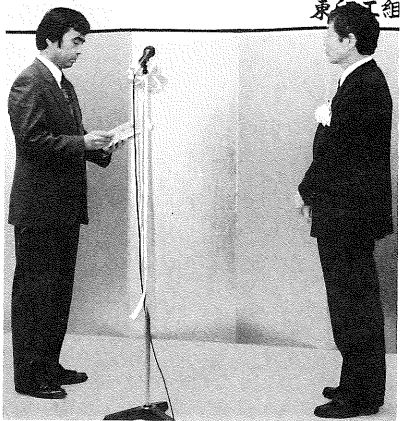
来賓の祝辞に続いて、受彰者 13 名を代表して、高千穂印刷(株)、石井淑人氏が謝辞を述べて、拍手を受けました。最後に水野副支部長が閉会のことばを述べて表彰式を終わり、祝宴に入りました。石沢顧問が乾杯の前に挨拶を述べました。「皆さん本日はおめでとうございました。一



口に 5 年、10 年、15 年と申しますが、一ヶ所に勤続するという事は仲々大変な事であります。皆さんのご努力は申すに及ばず、家庭に於る家族の方のご努力のお蔭であると深く敬意を表する者であります。印刷あり、文化あり、情報産業の一翼を担う印刷産業はこれからも伸びてゆく産業であります。皆さんも自信を持って、仕事に励んで戴きたいと思ひます。そして印刷を通じて社会に貢献して戴きたいと思ひます。

永年勤続従業員表彰

東工組



これから、5 年の方は 10 年、10 年の方は 15 年の方は 20 年と表彰を受けられますように願ひします。それでは皆様のご健康と皆様の会社の増々のご繁栄を合せて、京橋支部の一層の発展を祈念致しまして乾杯をします。声高らかにご唱和願ひます。「乾杯」どうも有難うございました。(拍手)、充分に用意された飲物やごちそうを前に、皆さんがそれぞれ楽しんでおられました。宴半ばには、工団連会長の平林さんがお馳染みの虎造の浪曲を、2 番披露して拍手をあびていました。続いて京橋支部の文寿堂印刷(株)の佐藤氏が、これ又お得意の「さんさ時雨」を唄つて、お目出度い席を一層、引きたてていました。7 時半過ぎに皆さんご馳走をたんのうされて、久保田顧問の音頭で、中締めが行われて、しばらくして、お開きとなる予定でしたが、その後に、遅れて馳け付けた方もおられて、8 時半になってやっとお開きとなりました。

(岩本)

地区だより

築地地区互友会旅行記

待ちにまつた九月三日(金)は、我築地地区の研修旅行の日である。

しかしながら大型台風十三号が日本列島に向つていとの事で、その日は朝から空は暗く時折小雨も落ちていた。

午前九時四十分、かねてからの約束通り、我築地の元気なおじさん達が東京駅八重洲口、銀の鈴へ集合した。

防災訓練や、法事等で、全組合員は参加出来なかったが、十三名のメンバーは遠足に行く小学生の様に明るく楽しみに燥いで、新幹線の電車に乗り込んだ。

先づ第一日目は、桜井印刷機工場の見学である。午後一時二十分岐阜羽島駅下車、小雨降る中、駅改札口には株式会社桜井グラフィックシステムズ営業部の後藤氏がにこやかに、出迎えて下さった。よく支部の臨時総会の宴会でお目にかかる、人懐かしい顔である。

小型の観光バスをさし向けていただき、早速車中の人となる。

岐阜市内をぬけて美濃市に入り、小さな山がいくつも重り合っている閑静な場所へ来た。ここまで一時間程もかかったのだろうか、どうやら名鉄「美濃」駅あたりらしい、更に山間部へとバスは走り抜けて行く。

折からの雨模様のためか、周囲の景色は、まわりに見える丘の様な小さな山に霞がかかり、墨絵をながめているような気持になる佇まいである。ああ、こんな処に住んでみたいな、と思わせる気配を漂よわせていた。

新鋭工場所在地は岐阜県美濃市三九五一と云う。とにかく山の中である。

(株)桜井グラフィックシステムの看板があつて山の麓の丘の上に我々の目指す工場があつた。

第一工場は、コンピュータ援用設計をする研究開発部門がありグラフィックデスクプレーを介して設計者がコンピュータと対話形式でシミュレーション設計を行っていると言ふ。

その隣りはシルク印刷をするスクリーン印刷機の製造工場で、我々が伺つた時は、丁度A倍版の大きなスクリーン印刷機が外国輸出用と云うことで完成間近かの工程にあつた。

第二工場へバスで移動、こちらはオフセット印刷機の製造部門で、約二千坪の大工場である。縦七十五米、横九十米の広い工場内は部品調整部門と印刷機組立部門とに別れている。

IBMのコンピュータシステムを導入、機械設計製図、製作工程がコンピュータ室より工場へ電送され、空調も部品管理、機械組立も全てコンピュータで管理、進行されていると云う。

生産の効率化、製品の高品質化のため、エレクトロニクスを活用した最新鋭のFMSラインを配し生産の自動化を可能な限り推進し、コンピュータネットワークによるオンライン管理



で本社と工場の一体化をはかっていると云う。軽快な音楽を奏で乍ら無人トロッコが完成部品を機械組立部門へ運んで行く——都会の密集地の小さな町工場にいる者にとっては仲々めずらしい光景ではある。

数えきれない部品が調達されて大小様々の印刷機が組立てられ完成されて行く——この多くの人達の努力と熱誠とで、最新鋭の印刷機が、完成出荷されてゆく工程は、実に見事なものである。有意義な見学をさせていただいたと感謝しつつ見学を終えた。

この工場は二百三十人の人達が働き約百億円の売上げがあるとうかがった。

見学が全て終了して、工場の前で記念撮影をしていただいた。そして多くの社員の皆様のお見送りをうけ工場を後にした。

低く暗い空の下、雨の中をバスにゆられて約一時間、目を醒すと、長良川のほとり岐阜グラントホテルに着いていた。時計の針は午後四時四十分を指していた。ひとふる浴びて暫く休憩、午後五時三十分ホテルを出て、小雨の中、長良川へと向う。いよいよ長良川の鵜飼の見物である。

二十人前後の人達が乗った舟が約四十艘程川に浮かべられ、モーターボートが三、四艘づつ曳航して上流へのぼる。

船中では料理が出て、酒が出て皆まず、腹ごしらえをする。川魚の塩焼きをつまみながらきゆうっと一杯、一同仲々の上機嫌なり。

鵜飼の光景とは云えば、具体的に鵜が魚をとって口から戻すところが見えず、単なる夜のショーと云う感じであったが、暗の中に篝火を燃やした舟が目の前をすべって行けば、こちらの船中では皆、立ったり座ったり、雨の滴も物ともせず、身をのり出してその古典絵巻を見ようとする。

夜八時半頃、鵜飼見物は終りホテルに戻った。夜半はここから近くの柳が瀬の飲食街へとタクシーをとばす人が多いと聞いていたが、生憎の雨のためか出かける野人は少なそう。

気になる台風はどうかとテレビのスイッチをひねれば、いよいよ九州へ上陸したと云う。明日の天気が大いに気にかかる。

明け方五時頃目を覚すと、窓の外は暴風雨の様子で、これは大変、今日はホテルに足止めかと心配された。

しかし、台風は中国地方を経て北陸に向いそうだと云う事で、朝食の終る頃は、さっきの風雨も嘘のように治った。

午前九時、観光バスが迎えに来た。

目前に聳える金華山には岐阜城が見える。このあたりは昔、斎藤道三や織田信長等の戦国武将の活躍したところ、騎馬に跨がる荒武者達の陣列を想像しながら周囲の山並を眺めた。バスは国道156号線を登って行く。——郡上八幡を過ぎて、せせらぎ街道へ入って行く、二時間以上はたっているだろう。

飛驒の里、高山市には丁度正午に到着した。

昼食後、高山陣屋、高山屋台会館等を見学し

ながら、江戸時代さながらの街並を散策して廻った。

歩き廻って若干の疲労を感じながら面々はバスに戻って、午後二時出発。

今度は来た道とは違う国道41号線を下って下呂町へ向う。

木曾川の上流、飛驒川に添った道は美しい杉小立ちの山々や岩間を流れ行く清流をおしげもなく見せてくれる。清しい気分である。

古来、三名泉の一つと云われた下呂温泉郷には午後四時半に到着した。

工場見学として一泊の旅で終らず、粹な幹事さんのお計いで夢の二日目が暮れた。二泊目は下呂温泉の大きなホテルである。館内にくつもある湯船につかって、旅の汗を流し疲れを癒す。

夜の帷が降りる頃若い芸者さんも来て大宴会となった。古参の先輩社長さん達からも「今回は本当に素晴らしい旅行会だった」と讃えられ幹事諸氏は満ち足りた。

三つ目の朝が爽やかに明けた。JR高山線で名古屋へ向う。この高山線の車窓からの眺めは格別で、切り立つ山あいの底に美しい川の流れ、閑かな釣人の姿、誠に見事な自然界の恵美を満喫した。名古屋発十二時三十一分——ひかり86号で東京には十四時三十八分に無事到着、明日から又元気で働いて来年も楽しい旅行会が出来ますようにと祈って散会した。

(筆春原)

月島地区研修旅行

大渋滞に悩まされた信州路

毎年恒例の親睦を兼ねた研修旅行を今年は、9月11日(土)〜12日(日)に行った。見学先は松本市にある藤原印刷(株)で主にページネーターを見学して、その夜は近郊の浅間温泉に宿泊する一泊二日のサロンカーの旅である。

その日は8月一杯続いたぐづついた天気が、嘘のような快晴で、午前9時に一同(10社12名)は張り切って月島を出発、首都高速4号線経由で、中央高速道に進む予定でで初台まで来ると、渋滞が始まる、初めの頃はこの辺りだけだろうと車内で月例会を開く。斯くして窓の外を見ると何と、まだ永福、一同ア然として声もない。さあ、それから大変、車内の電話をかける。昼食予定の諏訪の「そば処」には文句を言われて、見学先の藤原印刷さんには迷惑をお詫びする等で、正午になっても、まだ八王子附近をのろろ運転、結局、昼食を食べたのが午後3時、「おそば」の味も判らない忙しさで松本市へ掛け付ける。藤原印刷(株)へ到着したが、午後4時半、何と2時間半の遅延である。それにも拘らず、藤原副社長以下総出のお出迎えを受けて、誠に恐縮する。会議室で藤原専務から会社概要のお話を聴き、工場見学に移る。まず、ダイレクト刷版のシルバーマスター・ページネーターを見る。夏場の版下がかなりのスピードで、自動面付けされて、A5判16頁の紙

刷版が出来上がる。そのシルバーマスターをA全判オフセット単色機(ローランド社製)に取付印刷する。丁度、写真がかなり入った雑誌を印刷中であったが、紙刷版とは思えない素晴らしい出来栄だ。なるほど三菱製紙(株)と共同研究しているのは「ダテ」ではない。やはり、写真の撮り方やインキの成分は社外秘であるとか。一通り見学を終えて、会議室へ戻ると、所用から戻られた藤原輝社長が待って居られて、そのユニークな経営哲学を拝聴する。ご年配の社長はご自分が女性なので、社員を含めた地域の女性をすごく上手に活用されていると感じました。おいとまの時間が迫り、経験豊かな哲学の「サワリ」の部分しか聴けなかったのが残念でした。宿の浅間温泉に6時半到着。そのまま反省懇親会になる。わりと身近な規模の会社見学なので、活撥な感想が出る。それを「つまみ」に美味しい地酒を味わって堪能する。

翌日は松本城を見物する。きれいに化粧直された、現存する日本最古の城は風格がある。天守閣を登り始めたが、城内は大渋滞でやむなく、二階から降りてしまう。折から信州博がまだ開催されていたので、混雑したのだ。そのあと穂高町にある碌山美術館(ブロンズ像彫刻)や大王わさび農園を見物してから、一路東京を目指したが、笹子トンネル附近から渋滞が又始まり、結局月島に帰省したのが午後9時になった。幹事の「ワル感」のおかげで、皆さんお疲れ様でした。

(石井精一郎)



新川地区

新友会中国旅行記

新川地区には、他の地区と同様に各印刷会社の代表者による親睦と交流を図る新友会という名称の懇親会があります。年中行事として新年会に始まり、納涼会、ゴルフ会、旅行会等、会員の皆様方が気軽に参加できる様な会となっております。旅行会は隔年で開催されており一昨年は始めての海外旅行を台湾へと決行いたしました。

台湾旅行は好評のうちに終り、名勝旧跡、台湾料理、宿泊ホテル等々なかなか評判が良く、次回の旅行会を是非海外旅行への声が多く聞かれ幹事会にて二度目の海外旅行を実行しようということに決まりました。海外旅行といっても、限られた日程、予算、気候条件、治安等多くの条件に阻まれ、候補に上がった国は香港、ハワイ、シンガポール、フィリピン、韓国、中国等多くの国々が候補地となりましたがこの中で、香港、ハワイは会員の皆様も多数旅行されたことのある国であり、機会さえあれば何時でも行くチャンスがあることから今回は見送りにし、シンガポールは飛行機の搭乗時間が長い為3泊4日の日程では無理があることから候補地から外されました。フィリピンは治安問題があり良くなく、残る韓国、中国に絞られました。その中で幹事の中より「せっかくの海外旅行ならば、滅多に行けない土地が良く中国ならば、

全員のほとんどの方が行っていないだろう」という声が高まり幹事一同この意見に参同し、旅行地を中国と決定しました。中国と決定しても日本の約26倍もある国土に観光地が点在する為、観光の拠点を北京としその中のアレンジを旅行会社の方に決めて致しました。この様にして約一年半近くを費やして旅行当日を迎えることが出来ました。

9月23日、いよいよ出発です。新しく開設した成田空港の第2旅客ターミナルビルへ8・00集合。出発当日の天候はあいにくの雨模様でしたが、皆さん遅れることなく幹事一同一安心です。宇野地区長より挨拶の後、定刻通り飛行機は一路北京へと飛び立ちました。約4時間のフライトの後、北京空港に降り立った私は逆の意味でのカルチャーショックを受けました。それは国際空港というものの、建物は昭和初期のレベルであり、窓ガラスは歪がひどく窓枠は木製といった有様、入国手続を済ませた後は、荷物チェックの税関を通ったはずのつもりが知らないうちに外へ出て来てしまったという感じであり、改めてここは中国なんだなという実感が湧いてくる。空港からバスに乗り北京市内まで約30キロの行程をへて天安門広場に到着した。数年前に起きた天安門事件の光景が頭を遮った。しかし、その当時の思影はくたがた同じことはテレビの画面で見慣れた天安門の人々と自転車の多さである。それは交通機関の未熟さを物語っている。旅行初日の観光はそこそこに済ませホテルにチェックイン後、夕食へと出かけた。



北京料理の代表として北京ダック、宮廷料理、羊肉のシヤブシヤブ等が有名であるが、初日は羊肉のシヤブシヤブであった。日本で牛肉のシヤブシヤブを食べ慣れている我々にとって肉が牛から羊へと変わっただけのものと思ひ込んだのが大間違いであり、鼻につく臭いと独特の味のするタレは想像を絶する味であり（外国人に塩からや納豆を食べさせる様なもの）皆少食さみであった。ここで幹事一同夕食のメニューを選びを失敗したと思いつつも、「中国と日本では味覚が違んだからこんなものでしょ」と明るく振りまつたのは言うまでもない。

2日目は、全行程北京市内であり、故宮博物院、景山公園、西太后ゆかりの顔と園、中国雅技見学と朝から晩までスケジュールがつまっている。その中でも故宮（紫禁城）は、映画西太后やラストエンペラーで見覚えがあり当時の皇帝の権力の凄さを何かわせてくれた。その大きさをさるや東西750m、南北960mの故宮は高さ10数mの城壁と外側に幅52mの堀に囲まれ建物の部屋数は俗に9、999室、所蔵品は100万点にもおよぶと言われています。ここで初めて中国のスケールの大きさに感嘆し、3日目の万里の長城の見学で中国4、000年の歴史を実感したしだいである。この他にも名勝旧跡を数多く見学し、遠く近い国中国を満喫しました。この様にして無事中国旅行が修了し、新友会の今年の大きな行事を終えることが出来ました。

最後に今回の旅行の計画に携わった宇野印刷

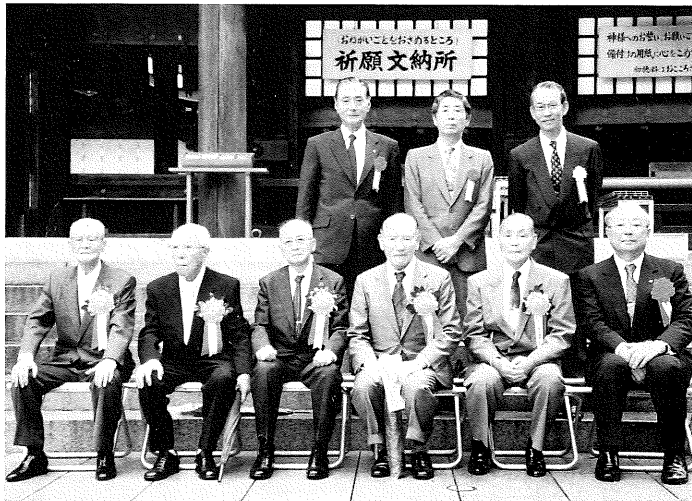
の宇野一男地区長、荒井美術印刷の荒井和男幹事、幸文社石井印刷の石井治久幹事、久栄社の田島久義幹事、そして事務手続等をしていただいた宇野印刷小熊由季さんに心から感謝をいたします。再来年も旅行会が行なわれますが、海外旅行を2回連続したこともあり次回の幹事さんの苦勞が窺われます。

（新川地区幹事 金山明裕）

敬老の集い

於・明治神宮

9月21日(火)



中央厚生事業協組30周年記念式典

於・日本橋ロイヤルパークホテル

10月13日

10月13日(水)、日本橋箱崎のロイヤル・パークホテルにて、中央厚生事業協同組合創立30周年記念式典が開催されました。まず午後4時から物故者慰霊祭が行われて、歴代の役員物故者をスライドで映写しながら、その業績を讃えて往時を偲びました。続いて第2部で5時から、記念式典が行われました。司会の長山浩専務理事によって開会が宣せられて、まず開会の辞を川崎副理事長が述べて来賓へ謝意を表した後、牧野理事長が式辞を述べて、30年前の丁度今日中央厚生事業協同組合が発足して今日に至った経過を説明されました。続いて感謝状の贈呈式が行われ、まず役員功労者感謝状贈呈が行われ、中央厚生事業協組創設時の功労者である、90才の長山朝氏へ牧野理事長より感謝状が手渡されました。続いて歴代の役員功労者として、川崎、矢野、斎藤、増谷、牧野の各氏へ感謝状が朗読され手渡されました。続いて、永年勤続職員感謝状贈呈があり、今野事務長が表彰されて70名の参加者から、それぞれ拍子が贈られました。続いて受賞者代表の謝辞のあと、来賓祝辞があり、まず中央区長、矢田美英氏が中央厚生事業の業績を讃えて祝い、続いて中央区議会議長磯野義夫氏、東京都中小企業団体中央会、事務局



長、林田晋司氏、中央区工団連会長、平林智司氏がそれぞれ祝辞を述べた後、祝電披露では、鈴木都知事からのお祝いの言葉も寄せられました。以上で式典を終了して、別室に用意された懇親会場に移り、乾杯を前に、業務提携先の(株)祝一の社長、専務の紹介、東印工組京橋支部の神林支部長、京橋製本協同組合、城所支部長の祝辞が行われて、お祝いの言葉が述べられました。乾杯の音頭は、中央厚生事業協同組合の金子氏発声で賑やかに行われました。当京橋支部からも、大竹・小山・田島相談役、瀬戸参与、その他、関根、村上、宇津木の各氏が招待されていました。和やかな懇談のあと、7時半に中絶が行われてお開きとなりました。

支部の動き

8月3日(火)70周年式典小委員会(14時～16時) 於・支部室

神林支部長他担当者出席、

8月23日(月)70周年記念日本印刷新聞座談会(14時～16時) 於・支部室、顧問・相談役出席。

8月25日(水)JSSD委員会(14時～17時)、 於・支部室、印刷・製本各役員出席。

9月1日(水)部長・監査・地区長会(11時～14時) 於・支部室、神林支部長他役員出席

。70周年記念式典進行について、演芸にピアノ、シャンソン、ラテンの3名の女性予定。13日(月)10時に東武ホテルで最終リハーサル

。永年勤続従業員表彰式、10月8日(金)、京橋会館七階に会場予定変更、事業所分担金

5年～3千円、10年～4千円、15年～五千円、顧問、相談役、参与、役員8千円。

。各地区見学旅行日程、築地地区→9月3・4日、桜井グラフィックシステムズ。岐阜

月島地区→9月10・11日、藤原印刷・長野。

9月9日(木)東印工組日本橋支部創立70周年記念式典、(17時～19時) 於・箱崎ロイヤル

パークホテル、神林支部長出席祝辞を述べる

9月11日(土)東印工組板橋支部創立40周年記念式典 (17時～19時) 於・板橋区立文化会館、神

林支部長出席

9月13日(月)70周年記念式典打合せ、(10時～15時) 於・銀座東武ホテル、役員他出席、

9月14日(火)東商中央支部商工振興委員会(13時～15時) 於・中央会館、神林支部長出席、

9月17日(金)東印工組京橋支部創立70周年記念式典開催(16時～20時)、於・東武ホテル

。式典(16時～17時)司会、荒川副支部長。物故者への黙祷

。挨拶 神林支部長

。祝詞 東印工組理事長 塚田益男殿

中央区区长 矢田美英殿

中央区工団連会長 平林智司殿

日本橋支部支部長長谷川武次殿

。支部功労者表彰 神林支部長

。謝辞 顧問 小宮山敬之殿

。閉会の辞 顧問 宮入副支部長

二、講演(17時～18時) 司会 松川副支部長

。「21世紀を掴む印刷経営」 東印工組理事長塚田益男殿

三、祝宴(18時～20時) 司会 十文字副支部長

。挨拶 神林支部長

。祝辞 顧問 石澤 幸殿

。鏡割り 顧問 久保田幸一郎殿

。乾杯 顧問 各地区代表9名

。飲談 顧問 斎藤喜徳殿

。演芸、ピアノ奏者 豊島女史

シャンソン歌手 井芹女史

ラテン歌手 平 女史

。大々 東印工組専務理事小山英美殿
 総勢約250名出席、会費支部員1万五千円、
 関連業者3万円、

9月21日(火)敬老の集い、(10時～13時)於・明治神宮、参集殿、神林支部長他6名出席、
 10月5日(火)部長・監査・地区長会、(11時～17時)於支部室

一、当面する支部事業について

。永年勤続従業員表彰式、10月8日(金)18時
 京橋会館、5時集合、90名出席予定。

二、年末年始行事予定

。次回地区長会、12月3日(金)、17時、仲乗
 。本部新春の集い、1月13日(木)、17時30分
 椿山荘、会費1万3千円、

。京橋支部新年臨時総会、1月21日(金)、18時、中央会館、会費1万円、関連業界、1万5千円

。その他、支部報発行12月予定。

10月6日(水)東印工組浅草支部創立70周年記念式典(17時30分～20時)於・浅草ジューホテル、神林支部長出席、

10月7日(木)本部支部長会、(15時～17時)於・印刷会館4階、

一、本部事業推進についての協議事項、

1、下期事業の運営について

。構造改善事業―印刷業の第4次構造改善計画の策定、全体計画と5年度計画

9/20近代化協議会にて了承、

構造改善5年度実績調査等の準備、高度化事業「管理用ソフト」の開発普及、

研修会の開催、10/7満員、11/920名、

。経営改善関係―取引慣行改善事業として「下敷き」の作成、高度化事業、取引慣行改善チェックリストの普及。

。小企業対策事業―年賀状関連印刷物の作成、「かわら版」の発行、高度化事業、業務用印刷物対応ネットワーク

。資材対策事業―インキPS版価格調査
 。教育事業―各種講習、講座の開催、有資格者事後指導講習10/13(水)、健保会館高度化事業、パソコン体験スクール、11/9、亀戸会館、1/7立川会場、

教育研修ガイド作成
 。労務、環境、環境保全関係事業―総合賃金調査の実施、高度化事業、後継者育成セミナー開催の事前調査、労務環境整備報告書の作成、産業廃棄物処理実態報告書作成

。厚生事業―永年勤続従業員表彰式の開催、11/6(土)明治座、共済制度加入増強、

。組織、総務関係事業―賦課金算定基準の見直し、新春の集い開催1/13(木)椿山荘組合員1万3千円、青年会、同伴夫人1万円、関連業界3万円、組合加入増強運動の展開、イメージアップ対策。

。その他―高度化事業、海外動向調査、10/24～11/3、米国、ドイツ、ブリ

ンテック'94の準備、平成6年8/25、26、27、の三日間開催

構造キックオフ大会の開催、11/11椿山荘

10月8日(金)永年勤続従業員表彰式開催、(18時～20時)於・京橋会館7階、月光の間

式次第 司会

開会の辞 荒川副支部長

挨拶 神林支部長

表彰 5年、10年、10年合計133名

来賓、東印工組常務理事 小山英美殿

中央区工団連会長 平林智司殿

謝辞 高千穂印刷(株) 石井淑人殿

閉会の辞 水野副支部長

祝宴

乾杯 京橋支部顧問 石澤 幸殿

中締 京橋支部顧問 久保田幸一郎殿

10月13日(水)中央厚生事業協組創立30周年記念式典(17時～19時)於・箱崎ロイヤルパークホテル、神林支部長他役員出席、

10月26日(火)京橋電気安全協合理事会(11時30分～12時30分)於・京橋消防署

10月27日(水)中央区産業文化展実行委員会(10時30分～12時30分)於・中央区役所

11月1日(月)次期役員銓衡委員会(14時～16時)、於・支部室、推薦委員10名出席

11月4日(木)本部支部長会(15時～17時)於・印刷会館、神林支部長出席、

1、本部事業推進についての協議事項、

。構造事業―高度化事業「管理用ソフト

- ト」の開催普及、研修会の開催 11/9、20 名
- 。経営改善関係事業—取引慣行改善事業として「下敷き」作成、11 月支部発送、希望者には頒布、一枚 100 円、
- 。教育事業—高度化事業、パソコン体験スクール開催、
- 。厚生事業—永年勤続従業員表彰式の開催 (第 42 回) 11/9、明治座、352 名表彰、東京都感謝状 5 年に 1 回となる。
- 。組織、総務関係—新春の集い、動員数 600 名 (組合員の 2 割) 予定
- 2、構改キックオフ大会、11/11、
- 3、今後の課題、
- 永年勤続従業員表彰、東京都感謝状、賦課金算定基準の見直し、
- 本部支部の関係、特に会計処理の問題
- 4、役員改選にあたって
- 平成 6 年 1 月より各支部「総代」改選、
- 2/24、平成 6・7 年度役員推薦会議。
- 11 月 10 日 (水) 次期役員銓衡委員会、(11 時 30 分～13 時) 於・支部室、推薦委員 10 名出席、
- 11 月 10 日 (水) 東製工組京橋支部創立 70 周年記念式典、(16 時～20 時) 於。箱崎ロイヤルパークホテル、神林支部長出席、挨拶する。
- 11 月 11 日 (木) 構改改善事業キックオフ大会、(14 時～16 時) 於・椿山荘、京橋より 15 名出席
- 11 月 13 日 (土) 東印工組上野支部創立 70 周年記念式典、(16 時 30 分～20 時) 於・上野東天紅、神林支部長出席、

11 月 18 日 (木) 本部長理事会、(15 時～17 時) 於・印刷健保会館、支部理事出席、

支部員の異動

脱退組合員

。京一商事(株)、渡辺久殿 (京橋地区) が脱退されました。(8 月)

。(有) 日立印刷、佐々木享殿 (港地区) が脱退されました。(10 月)

。藤庄印刷(株) 東京支社、山口教夫殿 (八丁堀地区 賛助会員) が脱退されました。(8 月)

社名・所在地変更 3 件

。銀座地区、(有) 一誠堂森山印刷所は、新社名を(株) 森山印刷と変更しました。

。入船地区、(有) 羽生印刷所は新社名を、(有) 羽生印刷と変更し、新住所へ移転しました。移転

先は、江東区東陽 5-16-3、電話 5683-7515、FAX 5683-7515 に変更しました。

。新川地区、(有) 一星社印刷所は新住所へ移転、新川 1-16-6、恒陽サンクレスト 301 です。

支部名簿誤り個所訂正のお願い

。FAX 番号の間違い個所訂正 2 件

日本精版印刷(株) (22 頁) FAX 3551-2136 に訂正

(株) 典文社 (24 頁) FAX 3541-2016 に訂正下さい

。電話番号の間違い個所訂正 2 件

(有) 旭印刷 (28 頁) 電話 3661-7669

(有) 明興社印刷所 (35 頁) 電話 5600-8321

お悔み申し上げます

▼ 築地地区、(株) 佐藤印刷所社長、佐藤倫五殿が逝去されました。(8 日)

▼ 銀座地区、(有) 欣盛堂今井印刷所社長、今井正

太郎殿が逝去されました。(9 月)

▼ 八丁堀地区、信濃印刷(株) 会長、児玉右内殿が逝去されました。(10 月)

編集後記

本年も歳末を迎えて気忙しい毎日ですが、今年の冷夏の異常気象は、米不足を生み、経済にもその影響を及ぼして、地方での車の売れ行きが激減しているので自動車メーカーも一時休業や繰上り短縮対策に大わらわりのようです。中国を除いて世界各国も同時不況の現在、輸出は期待出来ず、企業の設備投資は冷えきったまま、頼みの公共事業投資も、大手ゼネコンの贈賄や談合問題で進展せず、一般消費も暖冬で家電製品が不振となれば、八方ふさがりです。このように冴えない景況でしたが、京橋支部にとっては、創立 70 周年を迎えて、記念誌発行や記念式典開催の準備、そしてその後跡かたづけで多忙な一年でした。幸い神林支部長以下執行部、支部員の皆様の力で無事達成された事は慶ばしい限りです。今月号は、この 70 周年記念式典を中心に、塚田理事長の講演や祝宴、そして永年勤続従業員表彰式、そして各地区だよりと多彩な内容となり、創刊以来の大増頁となりました。次月 3 月号は原稿不足が心配です。湊地区、八丁堀地区、その他地区の地区だよりをお待ちしています。その他、何でも寄稿下さい。(岩本)